

令和2年度 社会福祉法人桜友会 事業計画

【令和2年度法人事業目標】

1. 教育：法人理念の理解 技術・知識・礼儀・礼節、全職員の力量アップ
2. 環境：清潔・明るい・効率的・明解・適正評価
3. 財源確保：施設資源の有効活用、定員一杯までの利用促進

1. 特別養護老人ホーム ほほえみ福寿の家

I. 事業所目標

職員が長く働きたいと思え、一人一人が仕事に対する目標を持てる特養にする。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 職員の勤務時間に合わせて効率的に業務を行うことで稼働率を上げる。
- 2 優秀な人材を育て安定したサービス提供を継続する。
- 3 職員の介護負担軽減のため、移乗介助ロボットを導入する。

2. 短期入所生活介護 ほほえみ福寿の家

I. 事業所目標

ご利用者やご家族のニーズに合わせた支援をするために、知識・技術を習得し職員のレベルアップを図る。また、支援を通してご利用者やご家族が安全・安心して生活が送れる場を提供する。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 ご利用者やご家族の希望に沿えるよう予約・キャンセルの調整を行う事で稼働率の向上を図る。
- 2 職員のレベルアップを図るため、職員教育を行う。（3年間の間に全職員が外部研修に参加し、伝達研修を行う事で外部の情報を取り入れる。）

3. 通所介護 デイサービスセンターほほえみ

I. 事業所目標

- 1 外部との関わりを通してプロフェッショナルな職員を育成する。
- 2 ご利用者の自宅の状況を把握し、自立支援を目的とした機能訓練やレクリエーションを提供する。
- 3 平均利用者数39名以上を目指す。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 月1件以上相談員以外の職員がサービス担当者会議に参加する機会を作る。
- 2-① 月に1件以上、新規レクを企画・実施し、マンネリ化を防ぐ。
- 2-② 月に3件以上、ご家族からリハビリの意向を聞き取り、見直しをする。
- 3-① 月に1回、特色をアピールするチラシを発行し、包括や居宅事業所にPRする。
- 3-② 年に1回、家族のレスパイトや仲間づくりのための家族会を行う。

4. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ

I. 事業所目標

ご利用者の「出来る事」に視点を当て、笑顔で楽しく過ごして頂けるように支援し、ご利用者ご家族の満足度を上げる。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 ご利用者へのアセスメントを全員で行い、生活リハビリとして洗濯や食器洗い等を出来るだけご利用者に行って頂く事で自立支援を促す。
- 2 カンファレンスを行う際は、担当ケアマネジャーにも参加を促す事で事業所の周知を図る。
- 3 家族へのレスパイト、認知症の理解、仲間作りを目的とした家族会の実施を年1回以上行う。

5. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ栄町

I. 事業所目標

認知症のご利用者が、可能な限り在宅にて、能力に応じ自立した生活を送れるよう支援する。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 ご利用者一人一人に合った機能訓練・作業の提供ができるよう、毎月全員でプラン・ドゥ・シーを行う。
- 2 カンファレンス開催時には、担当ケアマネにも参加を促す事で事業所の周知を図る。

3 認知症理解と家族のレスパイト、仲間作りを目的として毎月のランチ会にはご家族をご招待し、いつでも事業所参観できる環境を目指す。

6. 訪問介護 ほほえみ訪問介護事業所

I. 事業所目標

職員の力量を経験に見合ったものに育成しながら、快適な職場環境で、一致団結した温かい介護を提供する。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 職員の力量に合った事例が対応できるよう、専門性の高い事業の受け入れを強化する。
- 2 職員の不注意による不適合・ヒヤリハットの発生を減らし、ご利用者に安心して頂けるサービス提供をする。
- 3 職員のスキルに合った研修の実施。個別に作成した研修計画にて実施。全員1回は外部研修受講、伝達研修を行い、部署内のスキル向上につなげる。

7. 軽費老人ホーム ケアハウス桜

I. 事業所目標

知識・技術・接遇を学び、職員の質を高める事で入居者様の満足度に繋げていく。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 勉強会でケアハウスについての概要や入居申し込み等についての案内・説明を身に付ける。
- 2 クラブ活動や行事を通して入居者様に意見を聞き取り、満足度の向上に繋げる。
- 3 営業活動を通して居宅・包括等との繋がりを持ち、満床定員26名を目指す。

8. 認知症対応型共同生活介護 グループホームほほえみごこち

I. 事業所目標

認知症になっても日々の生活で役割を担って頂く事で認知症の進行を抑え、住み慣れた町でその人らしく暮らす事ができるよう支援します。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 高齢者介護に関わる研修・勉強会へ参加をして改善活動を1月1件行う。
- 2 環境美化活動に関する事を職員1人1案出し改善活動に繋げる。
- 3 地域行事への参加等ボランティア等を活用し地域資源を活用する。

9. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち田原

I. 事業所目標

認知症の人ではなく、一人の人としての対応に心掛け支援していく。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 職員全員が研修・勉強会へ参加して改善活動を月1回行い、知識・技術のレベルアップを図る。
- 2 その人らしく生活を送って頂けるように、しつらえ整え、空間作りをする。
- 3 地域へ出向くことで、地域とのつながりを作り、顔なじみの関係を作る。

10. 小規模多機能型居宅介護 ほほえみごこち田原

I. 事業所目標

住み慣れた環境の中で、地域資源を活用することで、よいよい生活が送れるよう支援していく。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 ご利用者のニーズに合わせた支援をするため、研修・勉強会へ参加して改善活動を月1回行い、知識・技術のレベルアップを図る。
- 2 施設内外の美化活動を実施し、環境を整える。
- 3 地域行事に参加することにより、職員・ご利用者がともに信頼を獲得し、地域から選ばれる施設になる。

11. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみ栄町

I. 事業所目標

自己の仕事に誇りを持てる知識と技術・接遇を身につけ、地域社会から求められる施設を目指す。職員間のモチベーションを高めながら、効率的な業務を行える事業所になる。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 満床率100%・・・空きを作らない入退所の調整。待機人数…常時3名の待機者確保。
- 2 人材育成（職員の力量アップ）…職員の毎月開催のミーティング・勉強会出席率(伝達研修を含む) 100%を目指し、確実な知識を身につけ専門性を高めていく。外部研修1回/2か月 参加し、伝達研修を行うことで外部の情報を吸収していく。
- 3 環境・・・職員のモチベーションを上げ、業務改善意識を持てるようにする。職員の意見による効率的な業務改善を実施していく。（1回/月 業務改善案を出し実践する）

12. 居宅介護支援事務所 ほほえみ介護相談センター、ほほえみ介護相談センター栄町

- | |
|--|
| I. 事業所目標 |
| 互いに学びあう職場環境を整備し、事業所力の向上を図る。 |
| II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）： |
| 1 ケアマネジメントプロセスに関する知識、技術の共有と相互の向上を図るための同行訪問を月1事例以上行う。 |
| 2 外部からの情報の提供等、お互いに事業所の改善につながるような法人内の各事業所との意見交換会を行う。 |
| 3 1,2を実践することで各職員が自信を持って目標稼働率の90%以上で業務にあたることができる。 |

13. 関市中央第4地域包括支援センター

- | |
|---|
| I. 事業所目標 |
| 三職種が専門職としての知識を活かし、ワンストップ窓口としての役割が出来るよう自己研鑽に努める。 |
| II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）： |
| 1 介護保険制度の動向を見据え、県、保険者との連携強化を図り、専門職の研修等に参加し、業務の中で実践する。 |
| 2 地域住民が気軽に相談できる開かれた窓口となるよう、来客者には必ず全員で明るく挨拶をする。 |
| 3 有益に委託料を活用することにより、新しい事業展開を実施する。 |
| 4 保険者・県の研修に参加し職員のスキルアップを図る。 |

14. 関市認知症初期集中支援チーム

- | |
|--|
| I. 事業所目標 |
| 認知症初期集中支援のスキルアップを図り、質の高い認知症支援を展開する。 |
| II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）： |
| 1 専門職が専任で活動できる強みを発揮する。 |
| 2 活動分析を行って外部からの評価を受けると共に、外部からの意見を活動に反映させる。 |
| 3 外部研修の受講等を通じて、支援に必要となる最新情報をキャッチする。 |

15. 児童心理治療施設 児童心理療育施設桜学館

- | |
|--|
| I. 事業所目標 |
| 桜学館を利用する子どもたち、保護者、働く職員にとって安心できて安全である施設づくりを目指す。 |
| II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）： |
| 1 職員の専門性の向上を目指し、施設内研修の充実に取り組む。 |
| 2 入所している子どもたちの意見をきちんと聞き取ることができる仕組みづくりに取り組む。 |
| 3 より働きやすい職場環境づくりに取り組む。 |

16. 子ども支援センター とも

- | |
|---|
| I. 事業所目標 |
| 法人理念、児童家庭支援センター運営要綱、里親養育包括支援（フォスタリング）事業について一人一人が理解し、子どもの最善の利益をめざして、子ども、家庭、地域をチームで支援します。 |
| II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）： |
| 1 ともミーティングで法人理念や事業について常に話し合い、ケースカンファレンスや研修で支援の力量を高めます。 |
| 2 利用者も職員も心地よく過ごせる環境づくりを意識し、成長と成果をともに喜びます。 |
| 3 児童家庭支援センター運営事業費補助金、里親養育包括支援事業委託料についてよく理解し、財源 |

が利用者にも無駄なく還元され、次の利用につながるように活用します。

17. 施設内保育施設 ほほえみ保育園

I. 事業所目標

研修等で得た知識を活かした保育を実践するとともに、保育士の適切な「ことば」により、明るく使いやすい保育園を実現することで利用を促進する

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- | | |
|--|------|
| 1 外部研修で得たことを保育に取り入れ実践する、 | 3回/年 |
| 2 各保育士が講師となり技術と知識定着のための内部研修を行う。 | 3回/年 |
| 3 子どもに対して適切な言葉遣いを実践し、「ことば」を大切にされた環境で保育を行う。 | 毎月 |
| 4 利用促進につながる改善提案を実践する。 | 3件/年 |

18. 食事提供部

I. 事業所目標

セントラルキッチン、サテライトキッチン間でコミュニケーションを増やし意思を共有する。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1 セントラルキッチン、サテライトキッチン職員でペアを組み、各課題に沿ったテーマを考え、改善に取り組む(全5回)。
①清潔 ②明るい ③効率的 ④明解 ⑤礼儀、礼節
- 2 外部研修に積極的に参加し、部署内で勉強会を実施する。
- 3 配食提供食数目標 1日平均46食。

19. 本部事務

I. 事業所目標

内外の研修で業務の基礎知識を定着させ成長を促すとともに、既存手順の見直しと効率化を進めることで、力量アップとワークライフバランスの推進を図り、皆が働き続けたいと思える職場を目指す。

II. 目標達成のための施策（何に取り組むか）：

- 1-① 各自が講師となり、業務の基礎知識を共有するための研修会(手順書作成)を実施する。
- 1-② 担当業務において、同じミスの繰り返しゼロを実践する。(0件/月)
- 2-① 離職原因の分析と改善行動により勤続5年以上割合50%以上。
- 2-② サポート業務職員と正規職員の効率的な配置により人件費率70%未満。
- 2-③ 休暇が取りやすい雰囲気と効率的な労働環境作りにより有給休暇取得率50%以上。
- 3 人事システム効率化、人材採用、財務強化、設備計画的更新に対する改善提案7件以上。